

環境情報センターだより

発行 宮城県保健環境センター
住所 仙台市宮城野区幸町 4-7-2
TEL 022-257-7183
FAX 022-257-7194

2009 年
第 4 号
2009. 5. 15

“風薫る五月”，花や若葉の香りが風に乗って運ばれ、鼻をくすぐります。木々が芽吹き，若葉から青葉へと季節は駆け足で進み，もう夏の気配が感じられる様になりました。これから戸外での自然体験や動植物の観察などの活動には良い季節です。

センター前にある八重桜の並木は例年より 1 週間程早く，濃いピンク色の花を咲かせております。この八重桜は「平成六年度百万本植樹事業」で植えられたもので，まだそれほど大きな木にはなっていませんが，十数本の並木は，爽やかな青空に映えて，気分を浮きたたせてくれます。



(企画総務部)



◆「環境教育リーダーによる出前講座」

4 月 24 日に仙台市青葉区の「吉成市民センター」において「市民企画委員会～自然保護プロジェクト～」の第 1 回目の勉強会が開催されました。この勉強会では環境教育リーダーの佐藤清氏が講師となり



勉強会の様子

「地球温暖化と環境破壊について」と題した講演が行なわれました。講演会では時間を越えて京都議定書で定められた二酸化炭素排出量の達成状況や，二酸化炭素の森林吸収などに関する熱心な質疑がありました。



講演の様子

「地球温暖化と環境破壊について」と題した講演が行なわれました。講演会では時間を越えて京都議定書で定められた二酸化炭素排出量の達成状況や，二酸化炭素の森林吸収などに関する熱心な質疑がありました。

◆ 「地域の環境教育活動」の様子

塩竈に「ホタルの里」をつくる ……その経過ものがたり

平成 15 年に塩竈再生委員会において「蛍の里づくり」が提案されました。自然環境に情熱をもつ伊藤陽太郎さんが宅地化の進む中の市内を回り、場所の選定を始めました。そして、伊保石公園内がホタル生息の諸条件を備えていると判断して、市の担当者と相談して決めました。

伊藤さんは、園内がかつてホタルが飛び回っていたといわれる場所を観察し、また、隣町の川内ゲンジボタル保存会等を訪ねて、その組織やホタル飼育法のアドバイスを受けた。そして、いよいよ夢の実現というときになって、二度も病にたおれ、活動を休むこととなってしまいました。



伊保石公園案内図

平成 19 年、「ホタルの里づくり」への愛着が天に通じたか、2 年間の闘病生活のすえに病も癒えて、再び活動を開始しました。園内でのホタル飛翔の情報により、二つの小さなダム周辺の観察、生息に深く影響するという毎日の天候、気温の記録も始めました。その伊藤さんの姿を見て、何人もの仲間が集まってきました。そして、平成 20 年 7 月、



「塩竈市ホタルの里保存会」設立総会

ついに数匹のホタル飛翔を発見し、思わず皆で万歳をし、撮影にも成功しました。

「塩竈市ホタルの里保存会」の設立総会が開かれました。「人と野生生物との共存」と題したビオトープ管理士渡辺嘉昭氏の講演、塩竈市長、近隣の小学校長、宮城県塩釜保健所などの関係機関、地域の賛同者四十数名が出席して、盛会の内に開催され、関心の広がりを強く感じたところです。

会の終りには夢と希望を語りながら、ホタルの生息地の現地視察をして解散しま

ついに数匹のホタル飛翔を発見し、思わず皆で万歳をし、撮影にも成功しました。

平成 21 年 4 月 17 日に「ビオトープにホタルを育て上げ、子供たちに夢を、お年寄りに癒しを、人と自然の共生を」をスローガンにして、市民の森記念館ホールで待望の「塩竈市ホタル



ホタルの生息地現地調査

した。今後の課題として、この活動を長く持続する、飼育法の研究、NPO法人化による組織作り等が考えられます。 (文 環境教育リーダー 邊見徳郎)

お知らせ！！ 環境教育リーダーの活動の様子(写真, 記事など)をお知らせください。
センター便りに掲載したいと考えています。



◆ ハクセキレイ

構内の木々のみどりや五月の青空に映えて、生きものの躍動する季節となりました。本庁舎の裏の駐車場でチチーンと鳴きながら低空で長い波を描きながら飛ぶ野鳥がいます。よく見ると、白黒のツートンカラーで背筋がピンと伸びたスマートな体型の鳥で、長い尾を上下に振りながら地面をはねています。繁殖時期を迎えて今年もやってきたハクセキレイです。セキレイの仲間はスズメ目セキレイ科の鳥で、今の時期は仙台湾岸から広瀬川、梅田川など水辺の周辺で見かけるもっとも身近な野鳥です。近づいても人をおそれることもなく愛嬌のある動きでかわいらしさは人一倍です。これから構内の建物の軒下などの隙間に営巣すると思われるので、しばらくの間は毎日見ることができそうです。



セキレイ

さて、セキレイにまつわる話の一つ。特徴となっている長い尾を忙しく上下に振る様から、神代の昔から繁栄の神様として大切にされてきました。セキレイが家に巣を作ると神様のお使いが来たとして喜ばれるそうです。

また、戦国時代の武将の書状には印章代わりに使った一字書きのサイン(花押)がありますが、「セキレイの花押」と言えばご当地、伊達政宗の花押です。有名な話として葛



花押(模写)

西・大崎一揆を煽動したとして謀反の疑いをかけられて秀吉に呼び出された政宗は、証拠の書状を突きつけられ絶体絶命の場面でしたが、この書状（密書）の花押にはセキレイの目に針の穴がないから偽物だと主張して何のともがめもなく許されたそうです。政宗は正式な文書には穴を空け、密書は穴なしと使い分けていたと思われませんが、天下人秀吉の器の大きさが、戦国武将政宗の深謀遠慮な策略と知りながら許したものと思われます。この時、秀吉 55 才、政宗 24 才でした。このようにセキレイは神代からの伝承また歴史上の逸話にでてくる鳥なのです。

(文と絵 保健環境センター 鈴木康民)



- ◆ **今回入手した図書、作成した展示物の概要を紹介します。どうぞご利用ください。**
なお、貸出についてはホームページ「環境学習」のページをご覧ください。

■ 図 書

《 **だれでもできるやさしい土の調べかた** 》 塚本 明美, 岩田 進午(著) 合同出版(出版社)

概要: 土は植物の根や土壌生物が生活しやすいように、土の中の環境を一定に保つ働きがあります。あまり知られていない土の役割をていねいに解説し、やさしくできる 25 の実験を通して、土のしくみとはたらきを学びます。

《 **樹木学** 》 ピーター・トーマス(著) 築地書館(出版社)

概要: 長命で図体の大きい樹木は、過酷な世界に対処すべく、実にうまくデザインされています。樹木が活動を開始して、生長し、子孫を残し、死んでいく、その驚くべき世界をわかりやすく解説します。

《 **成長の限界 人類の選択** 》 ドネラ・H・メドウズ 他(著) ダイヤモンド社(出版社)

概要: 衝撃の書「成長の限界」から30年、同じ著者によるシリーズ第3弾。最新のデータを用いて崩壊の予兆と再生のシナリオを描きます。

《 **平成の名水百選** 》 (社)日本の水をきれいにする会(編) ぎょうせい(出版社)

概要: 昭和の名水百選に加え、新たな平成の名水について、地域の生活に溶け込んでいる水や水環境の中で、特に地域住民などによる主体的、持続的な保全活動が行われているものを、環境省が選定しました。それをガイドブックとしてまとめています。

《 日本の食と農～危機の本質～ 》

神門 善久(著) NTT出版(出版社)

概要:すさむ食生活, 荒廃する優良農地, 食と農の崩壊が進む真の原因は何か。食と農という手近な問題を手がかりに日本社会が陥っている集団的誤解を衝きます。

《 食糧争奪～日本の食が世界から取り残される日～ 》

柴田 明夫(著) 日本経済新聞出版社(出版社)

概要:限りある食糧に全世界が群がり始めました。「爆食」中国の脅威, エネルギー市場に吸い取られる穀物, 激減する水資源。わが国を襲う争奪戦を克明に描き, 果たすべき役割を示します。

《 土壌学の基礎～生成・機能・肥沃度・環境～ 》

松中 照夫(著) 農山漁村文化協会(出版社)

概要:わかりにくい土壌の基礎を平易に解説します。生きている土としての土壌のでき方と働き, その多様な機能と仕組みをわかりやすく記述しています。経済活動や農業による環境汚染, 地球環境への悪影響についても詳述しています。

《 土とは何だろうか? 》

久馬 一剛(著) 京都大学学術出版会(出版社)

概要:生命を育て, 生活の素材としても欠かせない土, その素性や働きを私たちは意外に知りません。砂漠化や土壌劣化などにより, 土が危機に瀕している今, 環境創造のあり方を考えます。

《 ウォーター・ビジネス 》

中村 靖彦(著) 岩波書店(出版社)

概要:今世紀最大の問題の一つと言われる水問題をめぐって, ウォーター・ビジネスの世界が加熱しています。日本国内やアメリカ・中国などの現場取材を通してその実態を明らかにし, 水はいったいだれのものかを考えます。

《 「水」戦争の世紀 》

モード・バーロウ, トニー・クラーク(著) 集英社(出版社)

概要:水は無尽蔵にあると思いがちだが, 利用できる淡水は地球の総水量の 0.5%にもなりません。今その淡水資源は急減しており, 商品として売られるために独占されつつあります。世界の「水」をめぐる衝撃の実態を明らかにし, その保全と再生のための方途をさぐります。

《 地球の水が危ない 》

高橋 裕(著) 岩波書店(出版社)

概要:世界中で水不足, 水汚染, 洪水が頻発しています。また陸地の 45%を占める国際河川流域で対立や紛争が絶えません。世界各地の水問題の現状を報告し, その危機的状況を訴えます。

《 水戦争～水資源争奪の最終戦争が始まった～ 》

柴田 明夫(著) 角川 SS コミュニケーションズ(出版社)

概要:2025年までに世界の35億人が水不足に襲われ、水の大量消費国である日本にも危機が迫っています。日本人がまもなく直面する水不足の現状と対応策を、総合商社の最前線で活動する資源の第一人者が語ります。

《 日本ミツバチ ～在来種養蜂の実際～ 》

日本在来種みつばちの会(編) 農山漁村文化協会(出版社)

概要:日本ミツバチは明治期に西洋ミツバチが導入される前の養蜂在来種で、病虫害に強く、耐寒性にも優れています。在来種養蜂の魅力、捕獲と巣箱づくり、蜂群管理の実際、蜜の採取から精製、販売までを解説しています。

《 森は地球のたからもの ①森は泣いている 》 宮脇 昭(著) ゆまに書房(出版社)

概要:小学校高学年向き。本物の森がつつぎつつぎに消えている、森は焼き払うことで人間は自然を征服したなど、今おかれている森の現状をわかりやすく解説します。

《 森は地球のたからもの ②森は命の源 》 宮脇 昭(著) ゆまに書房(出版社)

概要:小学校高学年向き。日本人は森とどうかかわってきたか、人間は森によって生かされているなど、人間や生きものと森のかかわりをわかりやすく解説します。

《 森は地球のたからもの ③森の未来 》 宮脇 昭(著) ゆまに書房(出版社)

概要:小学校高学年向き。森は最高・最強のフィルター、森をつくるのが地球温暖化防止の最善の方法など、森の役割や森のつくりかたについてわかりやすく解説します。

《 ふたりのイエローコスモス 》

正岡 慧子(著) おおくぼヒロアキ(絵) こどもエコクラブ全国事務局(出版社)

概要:児童書(絵本)。温暖化と環境汚染が進んでしまった未来の地球を舞台に、宇宙人の力を借りて地球の再生に取り組む少女と汚染された地球から避難する少年のふれ合いが描かれています。

《 3R検定 公式テキスト 》 3R検定実行委員会(編) ミネルヴァ書房(出版社)

概要:ごみゼロの知「3R」で暮らしを変えよう。次世代に美しい地域を残すための知、3R＝リデュース・リユース・リサイクル。「知っている」から「わかる」、そして「行動する」へ。自ら考え、行動するためのエッセンスが詰まっています。

■ DVDソフト

《国立環境研究所公開シンポジウム 2008》

(独)国立環境研究所(制作)

概要:2008年6月に東京会場と札幌会場で開かれた国立環境研究所の公開シンポジウムの講演内容を紹介しています。講演1「大気中に放出される温室効果ガスの行方を探る」。講演2「温暖化影響と気候安定化レベル」。講演3「低炭素社会 なぜ必要か? どうすればできるのか?」。講演4「ごみ問題・3R と温暖化のかかわり」。講演5「持続可能な好循環都市に向けて～環境技術と社会技術の融合」。

■ 環境教育教材

《いのちのバトンリレー集》

小中学生の環境学習では、自然環境や人間活動による複合的な環境影響を理解することを中心に行ってきました。ここでは、もう少し大きな俯瞰で地球環境を理解することにより、現在の地球環境問題に対する新しい価値観や創造力が生まれるのではないかと考え、地球の誕生から現在までの46億年を1年365日におきかえて、これまで起きたさまざまな環境変化を乗り越えてきた生命の進化を時系列にした「いのちのバトンリ



教材「いのちのバトンリレー集」

レー集」を作成しました。A4の紙を1億年として作成しても、その長さは約15mとなり、そのスケールの長さには圧倒されます。この教材では地球環境と「いのち」がこれまでどのような経過を経てきたのか、そして人類との関わりはどうなのか、大まかな流れの中から地球環境が維持されてきた微妙なバランスや「いのち」の大切さなどが理解できたらと思います。参加者の皆さんはリレー集を広げながら途方もない地球の歴史におどろき、またさまざまな環境変化に適応してきた「いのちのバトンリレー」に感嘆しました。